

地域社会との緊密な連携を築く

地域と一体になって健全な子どもを育むPTA活動

大口町立大口西小学校PTA

1 はじめに

大口町立大口西小学校は、昭和51年に大口町立大口北小学校から分離し、町内で3番目にできた一番新しい学校であり、今年で創立47年目を迎えた。大口町の西部に位置し、江南市や扶桑町と隣接している。児童数は487名、学級数は特別支援学級（5学級）を含めて21学級の中規模校で、PTA会員数は373名である。校訓「自立する子」の実現のために「明るい学校」「きれいな学校」「うるおいのある学校」を目指して、全職員が協働して教育活動に取り組んでいる。



【大口西小学校】

2 研究への取組

(1) 研究のねらい

子どもたちの健全な育成のためには、学校・家庭・地域が連携して教育支援や児童支援に取り組んでいくことが不可欠である。そこで本校PTAでは「地域と一体になって健全な子どもを育むPTA活動」をテーマに協力して、子どもたちとかかわりながら、見守りや支援をしていく活動を通して、将来的に地域を担う人材として子どもたちを育むことを目指して、研究を進めることにした。

(2) 研究の組織

本校のPTA組織は、5名の役員と4名の常任委員、16名の地区委員から成り立っている。生活委員会、厚生委員会、広報委員会、環境委員会の4つの委員会から成り、さまざまな行事の企画・運営に取り組んでいる。

大口町には、生涯学習のまちづくり実行委員会があり、町内の小中学校が「大口町の生涯学習の拠点」となり、地域の大人と子どもが、大人と大人が、学びを創り、学びに集い、学びをつなぐことのできる場を創出することをねらいとしている。その一環として大口中学校区学校支援地域本部があり、学校現場の教育ニーズをコーディネートし、地域住民による学校支援活動を実施している。また、中地域自治組織が「安全・あんしんで夢と希望がもてるまち」づくりを願い、結成された。以前から学校の教育活動を支援している。最近では、保護者の方の参加も見られるようになってきた。

3 実践活動の概要

(1) 子どもの学びを支援する取組

① 朝の読み聞かせボランティア「ぐるんぱ」

毎週木曜日の朝の読書タイムには、「ぐるんぱ」さんが、教室で読み聞かせをしている。毎週1学年ずつ順番で各学級月1回は回ってくるので、子どもたちはとても楽しみにしている。現在のPTAや卒業生の保護者が多く、10名の方が活動している。新入生歓迎、人権週間、新入児体験入学、卒業記念などでお話し会を行っている。



【読み聞かせ】

② 学校支援ボランティア

本校には現在24名の学校支援ボランティアが登録している。本年度は保護者が新たに3名加わった。毎週木曜日の環境サポートと月2回の図書館サポートがあり、ともに4～5名のボランティアの参加があり、年間を通して活動してもらっている。また、学校行事による養護教諭不在時に、看護師資格を有するボランティアを保健室サポートとして配置してもらっている。このほか、健康診断・まち探検サポート、運動会ボランティアなど、あらゆる面で協力を得ている。

③ あんしんパトロール団

登下校時の児童の安全の確保のために、スクールガードの方々が見守りをしている。現在3地区で120名以上のボランティアの方に活動していただいている。パトロール団の中にはわずかであるが、子どもの入学とともに活動している保護者もいる。あんしんパトロール団の方とは、日常的に行われる情報交換とともに、総会、2月に行うあんしんパトロール団感謝の会などを通して情報交換を行っている。子どもたちにとっては、顔なじみの地域の方という存在になっている。子どもの悩みや家庭での困りごとなどをあんしんパトロール団の方が学校に伝えてくれることもあり、力強い地域のサポーターである。

④ つれさり防止教室・自転車安全走行教室

中地域自治組織が中心となり、1年生に対して「連れ去り被害から、自身を守る方法を学ぶ」教室を実施している。当日は、地域の警察署の生活安全課の職員と、中地域自治組織のメンバー7名が指導に来ていただいた。また、4年生に対しては自転車走行における交通ルールとマナー及び危険予測の意識



【つれさり防止教室】

を高める教室を実施し、交通安全に寄与する姿勢を学んでいる。江南

警察署と愛知県警のBフォースを招き、指導を受けた。コースの準備、子ども用の自転車の確保、警察等への連絡調整もすべて中地域自治組織が担当した。

⑤ 里山クラブ

本校には、ビオトープがある。子どもたちの生活科や理科の学習など、さまざまな教育活動に生かされている。ビオトープの維持、管理には、里山クラブが携わっている。メンバーは以前の本校職員、地元の関連企業、ビオトープに関する専門的知識のある方、地域住民の方などである。PTA環境整備の活動に合わせて、ビオトープの清掃活動を行ったり、PTAへの情宣活動を行ったりして、現PTAの里山クラブへの勧誘を進めている。

(2) PTA活動

① あいさつ運動

PTAの生活委員会が中心となり、6月と10月に、それぞれ1週間PTAあいさつ運動を実施している。4つの委員会と役員がそれぞれ2回ずつ学校の2つの門に分かれ、登校してくる子どもたちにあいさつをしている。保護者のさわやかな声かけで、子どもたちも、だんだんあいさつができるようになった。また、毎月第一金曜日に、町のあいさつ運動が実施されているが、PTA役員、常任委員、地区委員も連携して参加している。PTA会員にも、参加を呼びかけ、協力してもらっている。教職員も、町のあいさつ運動に合わせて、地域に出向いて活動している。



【あいさつ運動】

② 交通立ち当番

登校時に、横断歩道や危険個所を中心に交通立ち番を交代で行っている。生活委員が中心となり、PTA会員を地区ごとに年間の当番予定を割り振っている。場所によっては、年に3～4回程度、当番が回ることもある。子どもたちの安全を守るとともに、あいさつの啓発にも一役買っている。

③ 生活委員会による通学路点検

PTA地区委員に通学路の危険個所を提出してもらい、5月に通学路の安全点検を生活委員が中心に行って、町に通学路の危険個所として改善要望をまとめ、報告している。その結果、毎年、大口町により改善が進められている

④ 地区委員によるストップマーク塗布

毎年6月に地区委員で通学路の横断の際、子どもたちが飛び出す危険のある場所にストップマークを塗布している。毎年100か所以上のマークを点検・補修している

⑤ P T A新聞の発行

広報委員が中心となり、学期に1度定期号として、P T A新聞「たしろ」を発行してきた。また、学校行事に合わせて、活動の様子や参加者の声を号外として発行してきた。しかし、コロナ禍で、学校行事やP T A行事の見直しや縮小もあり、本年度のP T A新聞は、年度当初と年度末の2回の発行を予定している。

⑥ P T A花壇整備

6月と11月に2か所あるP T A花壇に花の苗を定植し、環境委員中心に毎週1回水やりや草取りなどの世話を行って、学校生活に潤いを与えるようにしている。

⑦ P T A環境整備

年に1回、環境委員が中心になって企画し、P T A会員に参加を呼びかけて開催している。以前は6月と9月に親子で除草作業を実施していたが、ここ3年は、保護者のみの参加で1回の実施で計画している。本年度は、コロナの感染者数が増加したために中止となった。例年はP T A会員の80%近い参加がある。

⑧ 学校保健委員会

8月と12月に学校保健委員会を実施している。8月の学校医、学校歯科医や学校薬剤師を招いた会には、P T A役員と厚生委員が保護者代表として参加し、子どもたちの健康状態の把握に努めた。また、12月には、姿勢に関する講演会を実施するが、この時には、P T A役員、厚生委員のほかに、広くP T A会員にも参加を呼びかけ、高学年の子どもたちとともに研修を深める予定である。

⑨ P T A教育講演会、教育講座

6月の保護者学級に合わせて、毎年、教育講演会を行っている。高学年の子どもと一緒に保護者も参加して、外部講師の話を聞いている。ここ3年間はコロナ禍で中止を余儀なくされているが、以前は読み聞かせボランティアや自治省の方を招いてのケータイ教室を実施していた。また、10月にはP T Aの自主講座として教育講座を40名ほどの保護者を対象に実施している。ファイナンシャルプランナーによる人生設計を考える講座やハットグをつくる講座、料理教室などを開催してきた。本年度はコロナ禍と改修工事のために中止とした。

4 おわりに

大口町では「大口の子は、大口で育てる」ということがよく言われる。生涯学習のまちづくり実行委員会事務局や中地域自治組織が中心となって、P T Aと連携して学校を支えてくれている。少子高齢化や家庭の教育力の低下などを考えてみれば、これから、学校と家庭、地域の連携がますます必要となってくる。コロナ禍で、子どもたちが地域の祭りや行事で活躍できる状況ではないが、今後も地域とのかかわりを大切にしていきたい。